

第9回JLAシミュレーション審査会 参加者募集要項

シミュレーション 2024

実施通知

2024年5月21日

救助救命本部

パトロールレスキュー委員会

- 名称
■ 目的
第9回JLAシミュレーション審査会
 - ① 溺者・傷病者に対する救助救護技術の向上と、関係法令に遵守し、専門分野の有識者指導の下、ライフセーバー間の技術共有を目的とします。
 - ② 医療機関まで『命をリレーする一員』として、ライフセーバーと公的救助機関との連携能力向上を目的とします。
 - ③ 日本各地の活動環境にあわせたシミュレーションを実施することで、実施者、審査員ともに様々な想定を学び成長できる機会とするとともに、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。

- 日程場所
 - 北関東・東北・北海道ブロック 2024/10/27 (日) 千葉県安房郡鋸南町保田海岸
 - 南関東ブロック 2024/11/03 (日) 神奈川県横浜市海の公園
 - 九州沖縄・四国ブロック 2024/11/17 (日) 鹿児島県始良市重富海水浴場
 - 東海ブロック 2024/11/24 (日) 静岡県牧之原市相良サンビーチ
 - 近畿・中国・北信越ブロック 2024/11/30 (土) 兵庫県神戸市須磨海水浴場

※出場チーム数によって変更する可能性があります。

- 主催
■ 後援
公益財団法人日本ライフセービング協会
消防庁、海上保安庁
兵庫県、鹿児島県、静岡県、神奈川県、千葉県
神戸市、始良市、牧之原市、横浜市、鋸南町【各予定】

- 助成
■ 協賛
■ 協力
公益財団法人日本財団
2024/5/21 現在公募中

- 審査項目
調整中
 - ① 継続監視要領
 - ② ライフセーバー間の連携要領
 - ③ 傷病者への観察要領
 - ④ 救急隊への引き継ぎ要領
 - ⑤ 観衆への対応要領
 - ⑥ 監視長の指揮要領
 - ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
 - ⑧ 環境に配慮した対応要領（感染対策含む）
 - ⑨ 接遇要領
 - ⑩ 関係者の対応要領

- 想定
想定概略
 - ① 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。
 - ② 原則6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。
 - ③ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。
 - ④ 遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
 - ⑤ 実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
 - ⑥ 総括の指示で係員が計測を行い、総括の「想定終わり」の合図によって審査終了とします。
 - ⑦ 想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項などを実施者にお知らせします。

実施時間

12分間（実施チーム数によって変更します）

実施人数

原則6名 内訳(監視長1名 監視員5名)

使用資器材（地域によって変更の可能性あり）

- ① レスキューボード、レスキューチューブ×2、双眼鏡、パイプ椅子×3、拡声器、AED（訓練用AED、訓練用パット×2）、バックボード、傷病者記録票（バインダー含む）、ディスプレイグローブ×100、トランシーバー×4基（仮想消防含む）、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷のう×1、毛布、アルコールなど（事前に手に取って確認することができます）
- ② その他、普段監視業務などで使用している資器材の持ち込みを可能とします。
- ③ 傷病者に着用させる感染対策は各チームでご用意ください。
- ④ JLAの用意するAEDパットについては実機用となります。訓練用とは違い粘着力が強くなっていますので扱いに慣れるために、期限切れの実機用パットを体験するなど準備しておくことをお勧めします。

■表彰 審査結果により優秀チームを表彰します。

■審査員の構成等

- ① 審査員は主催団体本部から5名と地域クラブから8名、JLAスーパーバイザー、JLAメディカルダイレクター、外部審査員として消防庁様（若しくは消防関係者様）、海上保安庁様の原則約20名の構成とします。（地域によって変更あります）
- ② 地域クラブ代表の審査員は原則2年連続従事せず、審査員経験者を増やしたく希望します。
- ③ 地域クラブ代表の審査員は、原則前の年に従事した地域クラブ代表の審査員により推薦され、救助救命副本部長により承認します。
- ④ 救助救命副本部長は原則毎年、審査長として、救助救命副本部長は原則毎年、審査員として従事します。
- ⑤ アカデミー副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑥ スポーツ副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑦ 教育副本部長、副本部長、委員長のうち1名が審査員として従事します。
- ⑧ 各審査員等に欠員が出た場合、救助救命副本部長の推薦により、救助救命副本部長が承認することが可能とします。
- ⑨ 地域クラブ代表選出の審査員は、長年クラブ運営に携わり、多くのライフセーバー育成に貢献し、監視業務の連携活動に高度な審査が出来る者として。また、公的救助機関との連携活動を審査出来る者を推薦・承認することとします。
- ⑩ 新規に開催される開催地の審査員の選抜は、当該都道府県協会の推薦した地域クラブが、上記⑨に該当する人物を選出（人数は各要相談）し、救助救命副本部長が承認します。
- ⑪ JLA各都道府県協会は、視察を兼ねて代表者1名を派遣していただき、審査会オブザーバーとして参加願います。

■エキストラの募集

受付先：JLA事務局メール受付にてエキストラの公募を行います。

皆様のご協力よろしくお願い致します。 Patrol@jla.gr.jp 担当 中山

■審査員の発表

各実施日前迄にライフセーバーズなどで実施細部として別途お知らせします。

■実施細部の発表

ライフセーバーズで別途お知らせします。

■審査員及びエキストラへの事前説明会

各実施日当日朝に行う予定です。

事前説明会実施場所や時間は別途該当者へ連絡します。

■審査結果及び検討推奨事項発表

2025年2月7日（金）迄に協会HPにて発表します。

検討推奨事項を次年度のパトロールの連携技能や審査会に活かしてください。

■参加費

1チーム3,000円

■参加チーム数

各日程、最大10チームとし、申込順で締め切りとします。

■お申込み方法

1. 参加者募集要項の全ての書類を良く読み、参加規定を承諾した上でお申し込みください。
2. 参加者申し込みされた方は同時に同意書を承諾したものとみなします。
3. どの開催地にも参加できますが、年度内エントリーは全日程合計で1回までの参加にご協力ください。
4. **申し込み開始は、2024年8月9日（金）08：00からです。**
5. **申し込み締切は、最大10チームに満たない場合でも下記の通り実施会場ごとに締め切り日を設けます。**

2024/10/27 (日) 千葉県安房郡鋸南町保田海岸	申込締切	10/11
2024/11/03 (日) 神奈川県横浜市海の公園	申込締切	10/18
2024/11/17 (日) 鹿児島県始良市重富海水浴場	申込締切	11/01
2024/11/24 (日) 静岡県牧之原市相良サンビーチ	申込締切	11/08
2024/11/30 (土) 兵庫県神戸市須磨海水浴場	申込締切	11/15

Webエントリーすべての項目に記入願います

申し込みURL → <https://forms.gle/eSim8rf6XbFubbkx8>



申し込みQRコード

6. 参加費につきましては**1チーム3,000円**を申込締切日までに下記の口座へお振り込みください。恐れ入りますが振込手数料につきましては振込者側でご負担ください。

金融機関・支店名：三菱UFJ銀行 新橋支店 (店番433)
 口座種類・番号：普通 5298841
 口座名義：公益財団法人日本ライフセービング協会
 ザイ)ニホンライフセービングキョウカイ

※振込の際には、「チーム(クラブ)名略称 もしくは 振込者個人名」・「審査会」を必ず付けてください。【入力例】浜松町・審査会

7. 参加規定を満たしていない場合、Web入力の不備、参加費の未納等は参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。また、各都道府県協会会員登録の手続きをされていない方、各都道府県協会会費未納のクラブは、本審査会に出場できませんので、予めご了承下さい。
8. 全てのWeb申込入力事項はメモを取り、控えをお持ち下さい。
9. Web申込入力事項の個人情報、審査会プログラムに掲載される可能性があります。
10. 参加申込および参加費振込みの締切りは**各日程、最大10チームとし、申込順で締め切りとします。**ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

■参考時系列	5/21(火)	都道府県協会に速報連絡
	5/22(水)	協会HP及びFBで告知
	5/23(木)	ライフセーバーズにて配信
	8/09(金)	申し込み開始 08:00 から 審査員候補者へ依頼開始 エキストラ募集開始
各実施当日		審査結果発表
	2/7(金)	迄に検討推奨事項発表

～お申し込み・お問い合わせ先～

公益財団法人 日本ライフセービング協会 担当 中山
 〒105-0022 東京都港区海岸2丁目1-16 鈴与浜松町ビル7階
 TEL : 03-6381-7597
<https://ls.jla-lifesaving.or.jp/> info@jla.gr.jp
 (電話お問い合わせ時間 12:00～18:00)

第9回JLAシミュレーション審査会

参加規定 及び 同意書

1 [参加資格]

実施者の参加資格は下記の3点を共に満たしている者、若しくは本協会が特別に参加を認めた者でなければならない。

- (1) 実施者は、審査会当日満15歳以上でなければならない。但し中学生を除く。
- (2) 実施者は、ライフセービング活動を志し、出場する審査会の過去2年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、協会が認める教育活動に25時間以上従事した者でなければならない。
- (3) 実施者は、締め切り日までに、本協会の第1種から第6種の団体に登録していなければならない。
- (4) 実施者は、ベーシック以上の資格を所有していなければならない。実施者が高校生の場合は、BLSおよびWLS以上の資格を所有していなければならない。

2 [チームの参加資格]

- (1) チームは、締め切り日までに、本協会の第1種から第6種の団体登録が完了していなければならない。また、1団体からの出場は原則1チームまでとする(千葉県での開催時は千葉県内のチームであれば、所属浜毎の出場を認めます。ただし、1日最大実施チーム数10を超えた場合は出場制限をかけます。)。ただし参加チーム数が多くなり、運営に影響があると判断された場合は出場数に制限をかける可能性があります。
- (2) チームは、同じクラブに所属する実施者により構成されていなければならない。

3 [出場登録]

実施者は、あらかじめ申し込み手順に沿ったWebエントリーをしなければならない。なお、エントリー後の参加者の変更は、パトロールレスキュー委員会に届け出て、認められなければならない。

4 [チーム代表者]

各参加チームはチームを代表する者としてチーム代表者を1名おかななければならない。なお、チーム代表者と実施者はこれを兼任することができる。

5 [服装]

- (1) 各チームは、普段監視業務で使用するユニフォームを着用すること。JLA公式ユニフォームを使用しているチームは、原則として当年度に配布されたユニフォームを着用する事。
- (2) ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般常識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる実施者も審査会に参加することができない。
- (3) チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに審査会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。
- (4) 審査会主催者が指定する衣類(ラッシュゼッケン)を審査会中に着用していただくことがある。
- (5) 新型コロナウイルス感染予防策として、2023年6月21日JLAメディカルダイレクター、JLA救助救命本部、JLAアカデミー本部通知(新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2023)(2024年度と同ガイドラインが発表された場合は最新ガイドラインに準ずる)をよく確認して頂き、活動内容に応じて適切な感染予防を行ってください。

6 [参加費]

- (1) 参加費は、1チーム3,000円とする。
- (2) 参加費は、参加申し込みの締め切り日までに支払わなければならない。
- (3) 参加申し込み締め切り後の参加登録の取り消し、天候その他の理由により、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。
- (4) 実施者が欠場、あるいは失格となった場合でも参加費は返還されない。

7 [使用器材]

- (1) 審査会に使用する器材は想定に示された物を審査会主催者が用意するが、その他、普段監視業務で使用している資器材の持ち込みを可能とします。ただし持ち込み器材が審査会中に破損した場合でも、審査会主催者は責任を取りかねます。
- (2) 主催団体は、実施者の器材の検査・再検査を審査前、審査中、審査終了後任意に行うことができる。器材に著しい事前工作など、普段の監視業務での使用状態としてあり得ない場合は、実施者はその器材を使用できないか、または失格となる。
- (3) 審査会主催者が指定する表示物を器材等に貼用していただくことがある。
- (4) 傷病者に着用させる感染対策は各チームで用意すること。

8 [実施規則]

審査会実施人数は1チーム原則6名とします。ただし参加チーム内で6名確保が困難な場合は、JLA事務局に事前連絡した場合に限り、審査会実施人数を1チーム4名若しくは5名の構成でも可能とします。

9 [その他]

- (1) 審査会中に審査会主催者および審査会主催者が認めた者が撮影した写真、映像をライフセービングの広報の目的で使用することがあります。
- (2) 審査会中に審査会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがあります。
- (3) 審査会主催者への登録事項に虚偽が認められた場合、審査会への参加や記録が取り消されることがあります。

想定例

2024 年度 想定例 今後告知される実施通知により内容が変更されます。

時間	項目
0分	ライフセーバー（以下LS）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 0秒後スタート	監視本部前の波打ち際から、傷病者A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらはぎ）に急激な痛みを感じ、監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 また、上記の受傷した際に驚き右に転倒した。岩場に右前腕をつき、同位置に5cm程度の裂創、出血している。 【想定のおねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がかめ傷病者Aが安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為はNG）。④感染防止対策は十分であったか。⑤右前腕の裂創に対して止血を含む対応は適切であったか。
傷病者A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	
想定開始後 45秒後スタート	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から40m程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者B）が引き上げられたようだと言ってくる。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部にきたが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち1名が、波打ち際20m程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げた後、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：LS接触時、呼吸、脈、意識なしの状態からCPAと判断、左記状態以外は見たまま、外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用AEDを装着した場合は、解析するもショックの必要なし。実機用パットのため粘着力強。ライフセーバーのCPR実施は訓練用ダミーを用意。バイタルの観察は生体を使用。呼吸なし、橈骨・総頰動脈触れない。大量の海水を飲んでいて想定される。 関係者の条件：LS接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。行かせてしまうと救急隊到着1分後まで戻ってこない。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のおねらい】溺水により当初は意識レベル300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPAの判断、③救急要請、④CPRの実施、⑤AEDの扱いが適切かつ迅速であったか。電極パッドの貼り付け位置が適切であったか。⑥CPR中断の判断、⑦CPR若しくはEARを継続し、必要であればライフセーバー間の交代や連携はスムーズであったか。⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視〔重要〕。⑪溺水に伴う脈の観察でどの動脈を選択したか。⑫リトルアンを使用するため形だけではなく人工呼吸や胸骨圧迫が適切に実施されているか。⑬意識・呼吸・脈の確認を形式的でなくしっかりと観察できているか。⑭注意事項；JLAでは、「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン2023（2023年6月21日）」に示したように、2023年度はマウス・トゥ・マスクによる人工呼吸は傷病者と救助者の顔が至近になるため推奨していませんが、溺水の場合は低酸素血症が心停止の原因であることから、第8回シミュレーション審査会では、アフターコロナを見据えて感染対策（例えばHEPAフィルター付きポケットマスクの使用）をしたうえでの人工呼吸の実施は加点対象とします。なお、BVMは使用についてはJLA活動ガイドラインで推奨していないことにご注意ください。
傷病者B；監視本部前の波打ち際で意識不明	
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。